

令和4年度第2回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会

要点録

○協議会概要

開催日時	令和5年2月20日（月）19時00分～20時00分												
開催方法	対面開催												
会場	多摩市役所本庁舎 301会議室												
出席委員 (11名)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">新垣 美郁代 会長</td> <td style="width: 50%;">渡邊 郁子 副会長</td> </tr> <tr> <td>明石 のぞみ 委員</td> <td>斎藤 伸介 委員</td> </tr> <tr> <td>浅井 英夫 委員</td> <td>後藤 靖治 委員</td> </tr> <tr> <td>影近 卓大 委員</td> <td>岸野 美由紀 委員</td> </tr> <tr> <td>三浦 未来 委員</td> <td>小林 啓子 委員</td> </tr> <tr> <td>榊淵 正 委員</td> <td></td> </tr> </table>	新垣 美郁代 会長	渡邊 郁子 副会長	明石 のぞみ 委員	斎藤 伸介 委員	浅井 英夫 委員	後藤 靖治 委員	影近 卓大 委員	岸野 美由紀 委員	三浦 未来 委員	小林 啓子 委員	榊淵 正 委員	
新垣 美郁代 会長	渡邊 郁子 副会長												
明石 のぞみ 委員	斎藤 伸介 委員												
浅井 英夫 委員	後藤 靖治 委員												
影近 卓大 委員	岸野 美由紀 委員												
三浦 未来 委員	小林 啓子 委員												
榊淵 正 委員													
欠席委員 (2名)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">前山 英之 委員</td> <td style="width: 50%;">小泉 勝長 委員</td> </tr> </table>	前山 英之 委員	小泉 勝長 委員										
前山 英之 委員	小泉 勝長 委員												
事務局 (10名)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">健康福祉部長 小野澤</td> <td style="width: 50%;">保健医療政策担当部長 伊藤</td> </tr> <tr> <td>保険年金課長 松下</td> <td>高齢支援課長 五味田</td> </tr> <tr> <td>介護保険課長 廣瀬</td> <td>地域ケア推進係長 八木</td> </tr> <tr> <td>介護保険課介護保険担当2</td> <td>地域ケア推進係</td> </tr> </table> <p>多摩市高齢者在宅療養支援窓口 相談員 淵野</p>	健康福祉部長 小野澤	保健医療政策担当部長 伊藤	保険年金課長 松下	高齢支援課長 五味田	介護保険課長 廣瀬	地域ケア推進係長 八木	介護保険課介護保険担当2	地域ケア推進係				
健康福祉部長 小野澤	保健医療政策担当部長 伊藤												
保険年金課長 松下	高齢支援課長 五味田												
介護保険課長 廣瀬	地域ケア推進係長 八木												
介護保険課介護保険担当2	地域ケア推進係												
公開区分	公開												
傍聴者	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から無し												

< 報告事項 >

1 医療・介護関係者の研修実施報告

(資料1 令和4年度第1回・第2回 研修部会実施報告)

【事務局】(説明)

- ・今年度研修部会は2回実施
- ・第1回目は今年度の研修テーマの決定、企画をWeb開始で行った。
→テーマ：認知機能が低下した高齢者の意思決定支援
- ・第2回目は「第2回研修会」について内容の協議。
- ・初めてWebでグループワークを行うことから、事前の練習も行った。

(資料2-① 令和4年度 医療・介護者の研修実施報告)

【事務局】(説明)

- ・第1回目：11月9日実施。多摩市認知症初期集中支援チームより、チームの概要を講義。実際の事例を紹介しながら、具体的な流れやチームで行っているアセスメント、つなぎ等の説明。
- ・第2回目：2月1日実施。多職種のグループワークで「認知機能が低下した高齢者の意思決定支援」について事例から「通常、どのように意思決定を行っているか」を情報交換し、次に意思決定支援において課題となっていることを抽出した。

(資料2-② 令和4年度 第1回医療・介護関係者の研修実施報告(アンケート集計))

【事務局】(説明)

- ・94名の申し込みがあった(定員100名、事務局やチームが利用するWebの窓数含めると100名以上)。
- ・当日は77アカウントからの参加。(一つの窓から複数人参加のパターンあり、実人数の把握ができず)
- ・Web研修は受講しやすいこともあり、今回は薬剤師の参加が例年に比し多かった。
- ・アンケート結果では内容も概ね好評。初期集中支援チームについて具体的な理解ができた。
- ・「早期発見には多職種連携が重要」との意見が多く、研修の目的を果たすことができた。

(資料2-③ 令和4年度 第2回医療・介護関係者の研修実施報告(アンケート集計))

【事務局】(説明)

- ・49名の申し込みで47名の参加があった。
- ・初めてのWeb+対面のハイブリット開催。Web希望者が多かったが、対面でも良いとの回答あった方には対面で実施。
- ・グループワークでは、自分がこのケースの担当者だったら、と仮定して、意思決定支援をどのように行うか意見を出し合うことで、常日頃各職種がどのように意思決定支援を行っているかをお互い知ると共に、意思決定支援の際に各職どのような課題があるかを抽出した。課題の詳細については、協議事項の際に紹介する。
- ・今後の研修も、顔の見える関係作りの観点から多職種グループワークを実施するべきだと意見が多数。
- ・Web参加ならではの難しさ(意見がでにくい、音声の重なり等)があるとの指摘があった。
- ・グループワーク行うには時間が短いとの意見、今後の研修の行い方・方法についての課題がある。

【委員（訪問看護）】（意見）

- ・第2回の研修では事例発表をした後に、一人暮らし高齢者のACPIは非常に課題だという意見交換をすることができて大変有意義だった。各職種の考え方を共有することができてよかった。

2 多摩市高齢者在宅療養支援窓口実施報告

(資料3-① 多摩市高齢者在宅療養支援窓口相談実績)

(資料3-② 多摩市高齢者在宅療養支援窓口ニュース)

【多摩市高齢者在宅療養支援窓口】（説明）

- ・昨年同様に介護支援専門員からの相談が増加
- ・管理栄養士からの相談が初めてあり、多職種への周知が進んできたことを実感している。
- ・勉強会を行ったことにより窓口が浸透し、相談件数も年々増加している。

(資料3-③ 医師会・訪問看護ステーション連絡会企画書)

【多摩市高齢者在宅療養支援窓口】（説明）

- ・コロナ禍で訪問看護ステーションと医師会の顔の見える関係作りが進んでいない。
- ・令和5年度に連絡会の立ち上げを行う予定。
- ・MCSを活用して情報提供や研修会の企画を検討している。

【会長（医師）】（意見）

- ・訪問看護ステーションがいつの間にかできており、周知がされていないケースもある。コロナ禍で連絡会に入っていない事業所もあるので、関係なく参加出来て共有できた方がよい。
- ・高齢者在宅療養支援窓口は、今後も周知を拡大していく方がよい。

< 協議事項 >

3 「認知機能が低下した高齢者の意思決定支援」について、各職が抱える課題と解決に向けた方向性

【会長】（説明）

- ・今年度のテーマについて、研修を通じて各職より現状抱えている困難さ・課題を抽出した。
- ・本日は課題を整理し、課題解決に向けて来年度どこにポイントを絞って協議するかを協議する。
- ・まず事務局より第2回研修会で「認知機能が低下した高齢者への意思決定支援において、困難・課題と感じていること」として出た意見等を説明する。

（資料4 認知機能が低下した高齢者への意思決定支援において各職種が困難・課題と感じていること）

【事務局】（説明）

- ・ワークシート・アンケートの回答は、参加者が記入したものを原文で載せた。そこから出てくるキーワードを、右にまとめている。
- ・多くの職種から、「本人の本当の意思は？」ということ、「家族と本人の意見の違い」や「家族との意思疎通の難しさ」「キーパーソン不在」「職種間の意見の違い」等が出ており、またこれらに関して「多職種連携の必要性」「あらかじめ意思表示をしておく準備の啓発」などのワードも出てきている。

【会長（医師）】

- ・委員から「認知機能が低下した高齢者の意思決定支援」に関して、課題と感じていること等、意見ありましたら、発言をお願いしたい。

【委員（歯科医師）】（意見）

- ・歯科が意思決定支援まですることはほとんどなく、比較的自身で意思決定をしているケースが多い。
- ・しかしケースによっては本人と家族の意見の相違や、まず口をあけてくれないことなどがあるため、歯科治療は本人と信頼関係を結ぶところから行う。
- ・2回目の研修に参加したことで、多くの歯科医師が、多職種が訪問し本人や家族との意思疎通で苦労していることを理解できた。
- ・困難ケースに直接関わるのが少ないので、研修会等で今後も学んでいきたい。

【委員（医師）】（意見）

- ・課題の内半分以上が家族と本人の関係。
- ・認知症になる前から準備はするようにしているが、いざ認知症になると意思決定支援は難しい。
- ・認知症の方の意思決定支援は非常に難しいが、難しいのは承知の上で、ある程度受け入れることが重要。

【副会長（介護支援専門員）】（意見）

- ・キーパーソンが不在のケースが多いため、チームを組み多職種で関わるのが大事。
- ・今年度2回目の研修で新ためてこの考え方を学ぶことができた。
- ・多職種で関わることの重要性をより多くの支援者に普及していくことが大事だと思う。

【会長（医師）】（意見）

- ・医師が関わっていないケースもあるため、それを救い上げられるような仕組みがあるとよい。

【委員（地域包括支援センター）】（意見）

- ・キーパーソンが不在で本人の意思が不明のケースが多い。
- ・本人の意思は状況によって変わるため随時確認していくことが必要。
- ・その際に多職種での検討が必要になるため、顔の見える関係作りを地道にしていくことが大事。

【会長（医師）】（意見）

- ・本人の意思を覆すのではなく、過去の意思に固執しないで柔軟に考えていくことが大事。
- ・重ねて何回も確認していくことと、会話の中から小さいヒントをすくい上げることが重要。

【委員（保健所）】（意見）

- ・認知症の方の意思決定は難しい。本人の意思が揺れる時は丁寧に寄り添っていくことが大事。
- ・本人の意思決定支援が困難な際は、今までの生活や衛生状態、栄養状態が悪くなった際には、家族の意向だけではなく、情報を集約して客観的に判断していくことが大事。

【委員（小規模多機能施設）】（意見）

- ・小規模多機能施設では、コロナ禍になってから看取りが増えている。
- ・本人の意思決定ができない状況の場合、家族の意思は本人の意思の代弁であると考えて、家族の意向に沿うことを大切にしていた。
- ・家族支援の考え方や手法を重要視することを現場で経験したがACPの考え方は普及が足りない。

【委員（訪問看護）】（意見）

- ・主に認知症の方で、本人と家族との信頼関係を結ぶことに苦勞している。
- ・時間をかけて繰り返し訪問して、信頼関係を作ってからアセスメントし、ヘルパー等に情報共有をしている。

【委員（理学療法士）】（意見）

- ・認知機能が低下した方のリハビリテーションは学習していくことが難しいため苦勞している。
- ・どういった生活や目標を立てるのか、リハの到達目標をチームで共有することが大事。
- ・支援を行うなかで本人から出てくる意見を細かく拾い上げ、チームで共有していくことが大事。

【委員（柔道整復師）】（意見）

- ・介護保険の支援として訪問はしていないが、医療の急性期で入ることは多い。
- ・認知機能が低下した方の意思決定支援を行うことは少なく、経験値は少ない。
- ・意思決定支援の取組としては、日頃来院した方にACPの考え方を普及している。
- ・往診をした際に得た細かい情報をチームで共有できる仕組みづくりが大事。
- ・本人が3年前に言っていたことと、現在言っていることが違うということはよくあるため、チームで細かく連携をとっていくことが大事。

【委員（薬剤師）】（意見）

- ・支援の中では薬剤に焦点を当てる事が多く、家族の意思まで汲み取れないことが多い。
- ・介護保険制度を理解して支援を行うことができる薬剤師は少ない。
- ・薬の副作用が本人に与える影響など、生活の背景を汲み取って多職種と連携していきたい。
- ・直接意思決定支援に関わることは少ないが、本人のターニングポイントを知らせるなど、多職種での連携は大事だと考えている。

【委員（医師）】（意見）

- ・本人の背景は家族が一番よく知っているなので、対家族になるのではなく、チームの一員として一緒に協力していく考えをもつことが大事。

【会長（医師）】（まとめ）

- ・本人の意思を家族が代弁してくれればよいが、本人の意思を無視した家族の意見を言うこともあるため、本人の意見を正しく汲み取る必要がある。
- ・本人が平素から言っていたことを多職種で共有していくことが大事。
- ・本人の居心地がいいことを探していく。健康や環境の落としどころを探していくことが大事。
- ・MCSを使っているところはよいが、まだ普及していないところはどのようにしていくかが課題。
- ・MCSは家族も使う事ができるが、ほとんど入っていないためチームとしてどのように機能させていくかも課題。

【会長（医師）】（来年度のテーマについて）

- ・来年度は、事例を通して成功体験を共有し、本人の意見をどうやって引き出していくか、(テクニク的なところ) また意見を多職種でどうやって共有していくか、というところをテーマとしていくことはどうか。
- ・今後認知症も増えて、現在の困難ケースは普通になっていくため支援者の引き出しを増やしていくことが大事であると考える。

【委員一同】

- ・了承した。

< その他 >

4 その他

【事務局】

- ・来年度は委員の改選がある。
- ・協議会は5月に一度今の委員で開催し、その後改選後の委員に引き継ぐという形にしたい。
- ・次回の開催日は改めて調整する。

以上